こんな
取組です

熊本県教育委員会　地域学校協働活動モデル地域指定事業（八代教育事務所管内）
ふるさとを大切にする明るく元気な氷川っ子の育成

	●目指す子供の姿	●身に付けさせたい子供の力
氷川町教育委員会	ふるさとを大切にする明るく元気な氷川っ子 自分や他者を大切にする氷川っ子 学ぶ意欲にあふれる氷川っ子	達成感や自己有用感を感じられる 氷川町についての理解を深めふるさとを大切にする心を育てる 自分たちが地域の担い手になろうと考える

学校や地域の課題	①ＣＳの日（１１月第１土曜日）の充実に向け、五者が連携した取組が必要である。 ②令和３年度に実施したＣＳ委員・ 全ての教職員のアンケートから見える「ふるさとの理解・郷土愛を育てる活動」を目指し、五者連携して取り組む必要がある。 ③ふるさとを学ぶ「ふるさと『氷川学』」が単発的であり、９年間を見通したふるさとの学びを計画的に推進する必要がある。 ④地域学校協働活動に参画している地域の人々の思いを理解することが必要である。

● 取組の概要・特徴や工夫

○子供委員を任命し、「CSの日」に向け、企画、立案から熟議に参加することで、自分たちの思いを反映した充実感を感じられる活動とする。
○9年間のCS活動や学習支援などの学びの中で育ってきた子供たちが大人となり、CS活動や地域学校協働活動に参加して、将来を担う子供たちを地域総ぐるみで育てている。
○CSと地域学校協働活動との一体的な推進のために、教育委員会がCSディレクターや推進員を配置したり、連絡会を行ったりして指導･助言を行っている。
○CS委員、教職員、地域学校協働活動に参加してくださった方等にアンケートを取り、思いを活かしながらCS活動、地域学校協働活動を進めている。

● 取組の実際

CSの日（防災教室）で、地域の方や中学生から土のう作りを習っています。

学校運営協議会に中学生が参加し、地域の委員と熟議を行っています。

● 地域学校協働活動における効果・成果

【CSと地域学校協働活動の一体的な推進に向けての取組について】
○連携協議会では各学校CS委員代表と地域学校協働活動推進員が取組方針について熟議をし、共通理解の上で各学校のCS活動を進めている。令和4年度はコミュニティ･スクールの取組方針を「郷土愛を育むCS活動の充実」に決めて、この方針に基づいてそれぞれの学校運営協議会が熟議を行っており、共有した目標に沿って活動することができた。
○11月第1土曜日に氷川町全体で行っている「CSの日」の取組は、中学校区拡大CSごとに、身に付けさせたい子供の力を明確にし、企画、立案から子供委員の思いを取り入れた熟議を行い活動することができた。
【地域学校協働活動推進員等の育成について】
○氷川町教育委員会主催の学校運営協議会合同研修会、教育事務所主催の研修会、全国CS研究大会等の参加を通し、地域学校協働活動推進員とCS委員の資質向上につなげた。また、教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、CSディレクターによる毎週行う定例の連絡会では、共通理解の場や新任推進員の研修の場ともなり、地域学校協働活動推進員の連携した活動につながった。
○11月に行われた「CSの日」の公開後、他自治体等から講師の依頼を受け、取組の発表をすることで県全体への啓発にもつながった。
【地域住民･教職員の願いに対しての取組について】
○子供委員を新設したことにより、子供たちの思いを反映した熟議が行え活動が充実した。
○9年間を見通した「ふるさと『氷川学』」のカリキュラムを改善していき、全ての学校で9年間を通し、氷川町について学ぶ体制を確立するために、カリキュラムの作成を行っている。
○各学校からの支援要請カードに加え、新たに次年度の活動に活かす活動報告書を作成することで、活動の反省と効果を次年度に残すことができた。
【市町村教育委員会の役割について】
○「CSの日」の取組について、各拡大CSの活動内容や進捗状況を把握し助言を行うことで、「CSの日」の取組が充実した。
【推進による普及について】
○地域学校協働活動とCS活動の取組で成長した氷川っ子の姿を毎月発行される「広報ひかわ」に掲載し、地域住民へ知らせることで、地域学校協働活動とCSについての理解や協力が少しずつ広がっている。